

はじめてのG7 ウルトラSFX

目 次

○ 最初にスペシャルモードにするには	1
○ 安心ロックをセットする時は	1
○ 最初から使用できるスペシャル機能	1
○ 特殊文字入力機能	1
○ チャンネルの確認	1
○ メモリー群番号自動呼出し機能	2
○ メモリー待受けセット機能	2
○ 群番号すいとり機能	3
○ チャンネル指定機能	3
○ チャンネルメモリー機能	3
○ 自局免許番号表示機能	3
○ 相手局免許番号表示機能	4
○ 相手局免許番号吸い取り機能	4
○ 免許番号作成機能	4
○ HOLDキーについて	4
○ スペシャル機能をすべてOFFとする	5
○ ATIS信号カット機能	5
○ 群番号の解読機能	5
○ 群番号の自動作成機能	5
○ チャンネルの優先表示機能	6
○ 免許番号待受け機能	6
○ スキャンスピード切替機能	6
○ 全モードスキャン機能	6
○ メモリースキャン機能	6

○ 空きCHサーチ機能	6
○ 全モード待受け機能	6
○ 自動モニター機能	6
○ 留守番機能	7
○ 留守番メモリーガード機能	7
○ PTT自動リコール機能	7
○ 多群番一括リコール機能	7
○ タイマーリコール機能	7
《その他特殊機能》	
○ PA(拡声器)	7
○ ストップウォッチ機能	8
○ 目覚し時計機能	8
《その他HOLD機能》	
○ 受信感度低減機能	8
○ 送信出力低減機能	8
○ ローカルモード機能	8
○ 1分通話モード機能	8
○ タイマーカット機能	8
○ 80CH/158CHモード切替機能	9
○ 動作音の変更機能	9
○ 群番・CHロック機能	9
○ 群番解読一発モニター機能	9
○ セミデュプレックス機能	10
○ 周波数移動秘話機能	10
○ 切断信号の送信機能	11
《その他機能》	
○ マイクの機能	11
○ 特殊オプション群番機能	11

○ 数字キーについて	12
《チャンネル及びモード》	
○ モードの切替切替	12
○ CHの切替切替	12
《スペシャルメモリー機能》	
○ スペシャルメモリーの仕組み	13
○ スペシャルメモリーを呼出す	13
○ スペシャルメモリーの記憶方法	14
○ リセット群中の留守番機能	14
《HOLD機能一覧表》	15
《Mキーの機能一覧表》	16
《MONキーのCH指定方法》	17
《CALLキーの機能》	17
《チャンネルの配列について》	18
《表示ランプについて》	19

G7 ウルトラSFX

本書はウルトラSFXを初めて使用される方のために書かれています。

群番号の設定や、メモリーのさせ方、一部のディスプレイの意味などは、ノーマルの取り扱い説明書と同一ですので、そちらも合わせてご覧ください。

本機にはノーマルモードはありません。ただし他人に使用されないようにするため、死んだふり機能があります。死んだふり機能の状態では、表示、キー受付音などは、まったく作動しません。PTTも、モニターがききませんので無線機としては使用できなくなります。同時に安心ロックがかかります。

安心ロックとはGIII SFXと同様に、暗証番号を知っている人だけが、スペシャルを使用できるようにする機能です。暗証番号がわかりませんと、スペシャル状態にできませんので忘れないようにしてください。

★最初にスペシャルモードにするのは。

電源を入れて群番号が表示されれば、無線機として使用できる状態にすでになっています。群番号が表示されず真っ暗の場合は、暗証番号を打ち込んでください。

5桁の暗証番号を入力し終わりますと **SP-on** の表示が出ますので、以降は無線機として、動作できます。途中で打ちまちがえた場合、最初の桁から打ち直してください。

この時、ATIS ROMカートリッジが挿入されていれば、自局の免許番号はその免許番号になります。

★安心ロックをセットする時は。

スペシャル状態を他人に知られたくない場合、セットしますと無線機として機能を停止します。暗証番号がわからないと、無線機として動作しなくなります。

HOLD+REMOTE => 表示が真っ暗になり、以降は動作がしなくなります。

★最初から使用できるスペシャル機能。

1. モニターに落ちる際、CH表示をします。例 **1 32** ダウンモードの32ch
2. モニターからPTTを押すことにより、割り込み送信ができます。
3. 5分、1分の通話制限はタイマーカットの動作にかかわらずありません。

ただし、相手の局が通話制限状態になったとき、相手局だけリセットしてしまわないように、表示パネルの **1-MIN**

LOCAL のランプに注意してください。

4. リセット、モニター、レディ、送信中のどの状態からでも、メモリー、群番号の打ち替えができます。
5. マイクのキーで、CHのアップ、ダウン、モニターサーチ、モードの変更、メモリーの切り替え、連続リコールなど多彩な機能が実現できます。熟練すれば、本体にほとんど触らなくてすむでしょう。

6. 特殊文字入力機能。(0~9の数字以外のA~Fの英字の書込みができます。)

例. M + 1 + C + 1 + 2 + **SHIFT** + 1 + 2 + **SHIFT** + 3 = **12A63**

SHIFTキーで1から6と、AからFを切り替えます。

リセット状態のとき、マイクのSHIFTキーにより、すべての群番号メモリー及び特殊コードの呼び出しができます。

呼び出される順序は、メモリー0 => 1 => 2 => 9 => A-cod => b-cod => L-cod => H-cod => P-cod => E-cod => 00000の順です。

②呼び出し、着信のとき、群番号とチャンネル及びモードを交互に表示します。

7. チャンネルの確認。

レディ、送信中に **CALL** キーを押すとチャンネルの確認ができます。

8. メモリー群番号自動呼び出し機能。

CALL + **0** から **9** までのキー ⇒ そのメモリーにされている群番号で呼び出し。**CALL** + **1** から **0** までのキー ⇒ そのメモリーにされている群番号で呼び出します。

CALL + **0** ⇒ **c 00000** CQ (ZERO 5)

CALL + **SHIFT** + **4** ⇒ **c R - cod** Aコード (F0006)

CALL + **SHIFT** + **5** ⇒ **c b - cod** bコード (F0009)

CALL + **SHIFT** + **6** ⇒ **c L - cod** 近接車通信用 (F0005)

CALL + **SHIFT** + **7** ⇒ **c H - cod** 高速情報 (F0003)

CALL + **SHIFT** + **8** ⇒ **c P - cod** 交通情報 (F0000)

CALL + **SHIFT** + **9** ⇒ **c E - cod** 緊急通信用 (FF000)

9. メモリー、待ち受けセット機能。

すべてのメモリー、特殊群番号、免許番号の待ち受けセット、解除が独立して行えます。Mキーに続いて、CALLキーを押しますと、待ち受けのセット、解除のモードになります。

① 群番号メモリーの待ち受け設定/解除

例 **M** + **CALL** ⇒ **9 45678** 例として左記のように表示されれば4から9までのメモリー群番号が待ち受けセットとなっています。

この状態から1から9までの数字キーを押すと、待ち受け設定ランプが下記のように点灯/消灯になります。

1 → 表示ランプ 1 点灯/消灯 **6** → 表示ランプ L 点灯/消灯

2 → 表示ランプ 2 点灯/消灯 **7** → 表示ランプ H 点灯/消灯

3 → 表示ランプ 3 点灯/消灯 **8** → 表示ランプ P 点灯/消灯

4 → 表示ランプ A 点灯/消灯 **9** → 表示ランプ E 点灯/消灯

5 → 表示ランプ b 点灯/消灯

② 特殊番号の待ち受け設定/解除

特殊群番号の待ち受けの場合は、下記要領で設定します。

M + **CALL** + **SHIFT** + **4** ⇒ Aマークが点滅/消灯

M + **CALL** + **SHIFT** + **5** ⇒ bマークが点滅/消灯

M + **CALL** + **SHIFT** + **6** ⇒ Lマークが点滅/消灯

M + **CALL** + **SHIFT** + **7** ⇒ Hマークが点滅/消灯

M + **CALL** + **SHIFT** + **8** ⇒ Pマークが点滅/消灯

M + **CALL** + **SHIFT** + **9** ⇒ Eマークが点滅/消灯

待ち受けのセットが終わったら本体の **END** キーを押して設定モードを終ります。

また6秒間入力が無かった場合、自動的に設定モードを終ります。

いずれの場合も点灯、点滅した状態で待ち受けセットとなります。

また自分で最後に表示した群番号は、上記の操作に関係なく常に待ち受け状態になります。メモリー1からメモリー9まで、特殊群番号6種類で合せて16局待ちです。

10. 群番号すいとり機能 (群番号解読の時、表示された群番号を、自分のメモリーにコピーすることができます。)

コピーしたい群番号が表示されたら、以下の操作を行います。

HOLD + **HOLD** ⇒ **copy-** + **0** から **9** (0の場合) ⇒ **copy0**

この例では、メモリー0にコピーされていますが、以前に記憶されていたメモリーは消されます。消してもいいメモリーナンバーを選んで押してください。

雑用メモリーナンバーをあらかじめ決めておくと便利です。

11. チャンネル指定機能 (チャンネルの指定が、キー入力により行えます。)

例 50CHにセットする。 **0** + **5** + **0** + **MON** ⇒ **0 50**

例 123CHにセットする。 **0** + **1** + **2** + **3** + **MON** ⇒ **0 123**

CHが2桁の場合、キー入力も2桁で行えます。

12. チャンネルメモリー機能

1メモリーする

まず、記憶させたいCHにセットします。

例 100CHにセットする。 **0** + **1** + **0** + **0** + **MON** ⇒ **0 100**

100CHでモニター状態となります。その後例としてCHメモリー1に記憶します。

M + **HOLD** ⇒ **SET -** + **1** ⇒ **SET -1** 100CHがメモリー1に
セットされました。

また、通話状態(レディ)のとき、そのCHをメモリーしておきたい場合には、上記操作のほかに、以下に示す方法でも行えます。

例として、50CHで通話していたとします。

MON ⇒ **SET -** + **2** ⇒ **SET 2**

2メモリーしているCHに移る。(メモリーを呼び出す)

先程CHメモリー1に入れた、100CHを呼び出してみます。

M + **MON** ⇒ **SET -** + **1** ⇒ **SET 1** ⇒ **0 100** 100CHで
モニター状態となる

また、CH設定と似た方法でも行えます。CHメモリー2を呼び出してみます。

0 + **2** + **MON** ⇒ **0 50** 50CHでモニター状態となる

ここで注意する点は、CHメモリー番号の指定は、数字1桁で行うことです。

2桁または、3桁で行うとチャンネルの設定になってしまいます。

リセット、モニター、レディ、送信中のいずれの場合からでもCHの移動が瞬時に行えます。また、設定した時のモードも同時に記憶しています。

CHメモリー呼び出し時にも、そのモードに自動的に移ります。

13. 自局免許番号表示機能 (現在使用している自局の免許番号を表示させます。)

HOLD + **HOLD** ⇒ **copy-** + **MON** ⇒ **-0000**

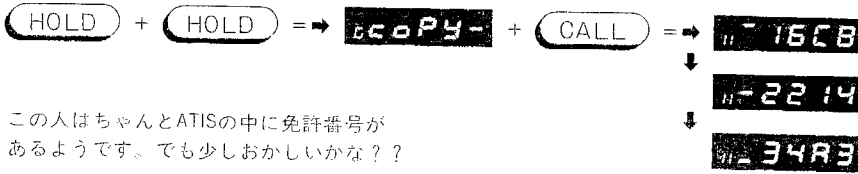
右記のように、3回にかけて表示されます。

↓
-0000
↓
-0000

どうやら、私の機には、ATIS ROMが入っていないようです。

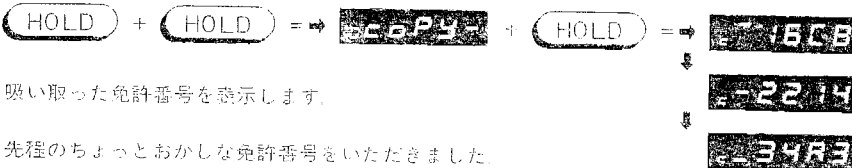
14. 相手局免許番号表示機能

受信した、ATIS信号の中の免許番号を表示させます。



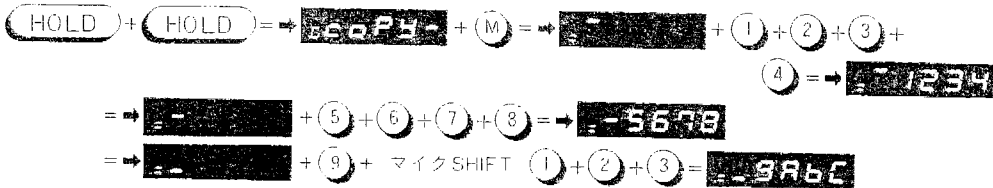
15. 相手局免許番号吸い取り機能

受信した、ATIS信号の中の免許番号を自局のものにしてしまいます。



16. 免許番号の作成機能

自局の免許番号をつくりだしてしまいます



これで、免許番号は、123456789ABCとなりました。

お互いに、G7 SFX同士ですと、電話番号なども1回のATIS信号で送れます。各自、活用方法などを考えてみてください。

★HOLDキーについて

●HOLDキー操作方法 その1 HOLD+5～8及びその他

HOLDを押しますと **F56789** の様な表示が表われます。これは群番ではありません。

↑このとき、表示の左端の桁は“F”の表示となっています。

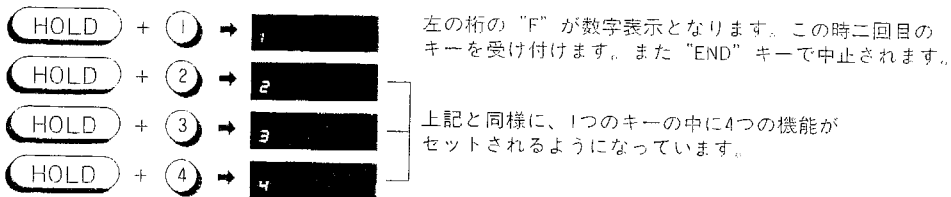
この点について注目しておいてください。

この状態から、HOLD1回目でセット、解除できる機能の操作が行えます。

●HOLDキー操作方法 その2 HOLD+1～4について

上記に続いて、1～4のキーを押しますと、今まで“F”と表示されていた部分が数字に変わります。本機は機能が増えたため、HOLD1～4は二段設定になっています。

HOLD1～4まで、それぞれに1～4のセットを設定します。



HOLDを押しただけでは下の表示だった左の桁に1～4の数字が表示されます。

●HOLD二段操作の例 (素早く続けて操作します。)

- HOLD** → **F** =HOLD+ 5～9はセットなし
- 1** → **1** =HOLD+ 1のなかはセットなし
- 1** → **1 1** =HOLD+ 1+ 1がセットされた
- 3** → **1 3** =HOLD+ 1+ 3がセットされた
- 1** → **3** =HOLD+ 1+ 1が解除された
- END** → **群番号表示** =HOLDの作業から抜けた

上記のような操作手順により、HOLD2段セットを行います。

●スペシャル機能をすべてOFFとする

SFXを早く換いごなしていただくためには、一つ一つの機能を十分理解していただくことと思います。そこで全ての機能をOFFとしてから操作されるとよいでしょう

- HOLD** → **56789** = 5～9のどれかが表示されている場合は、そのキーを押して表示を消します。
- END** → **#群番号表示** = 5～9のすべてが消えたところで“END”キーを押しますとHOLDの操作から抜けます。

上記と同様、二段目HOLDの機能も一括解除ができます。

- HOLD** + **SHIFT** ⇒ **PPEND** + **C** ⇒ **CLEAR** + **1** ⇒ **群番号表示** = HOLD+ 1の機能が全て解除した
- HOLD** + **SHIFT** ⇒ **PPEND** + **C** ⇒ **CLEAR** + **2** ⇒ **群番号表示** = HOLD+ 2の機能が全て解除した
- HOLD** + **SHIFT** ⇒ **PPEND** + **C** ⇒ **CLEAR** + **4** ⇒ **群番号表示** = HOLD+ 4の機能が全て解除した。

HOLD = **56789**
 HOLD+ 1 = **1 1234**
 HOLD+ 4 = **4 1234**

これらの機能のセットを全て一括解除する。

HOLD + **SHIFT** + **C** + **0** ⇒ **群番号表示** 全て解除されました。

17. ATIS信号カット機能

PTTをにぎった時、はなした時、1分に1回送信されるATIS信号を止めてしまう機能です。

- HOLD** + **5** ⇒ **F 5** セット
- HOLD** + **5** ⇒ **F** 解除

18. 群番号の解読機能

受信したATIS信号の中の群番号を表示させます。

- HOLD** + **6** ⇒ **F 6** セット
- HOLD** + **6** ⇒ **F** 解除

19. 群番号の自動作成機能

PTTをにぎったとき、現在のモード及びチャンネルを群番号としてしまう機能です。

- HOLD** + **7** ⇒ **F 7** セット
- HOLD** + **7** ⇒ **F** 解除

20. チャンネルの優先表示機能

通話中（レディ）に、群番号表示でなく、チャンネル及びモードの表示となる機能です。

HOLD + **(8)** → **F 8** セット **HOLD** + **(8)** → **F** 解除

21. 免許番号待ち受け機能

待ち受け中、自局の免許番号と同じ局だけ呼び出しを受けつける機能です。

HOLD + **(9)** → **F 9** セット **HOLD** + **(9)** → **F** 解除

群番号に関係なく、ATIS信号の中の免許番号だけに受けつけます。

尚、免許番号で待ち受けしているときは、群番号の受けつけは無効となります。

22. スキャンスピード切替機能

モニターサーチのスピードを変えます。セットで低速スキャン、OFFで高速スキャンです。

HOLD + **(1)** + **(1)** → **1**

23. 全モードスキャン機能

モニターサーチの時1まわりしてCHの最初になると、モードの一つ進めます。これによりすべてのモードがつながったようになり、サーチを行います。

メモリースキャンの場合には、すべてのモードに対して、メモリーCHスキャンをするようになります。

HOLD + **(1)** + **(2)** → **2**

24. メモリースキャン機能

CHの順番のスキャンではなく、CHメモリーのスキャンを行います。G7 SFXには0～9までの10個のCHメモリーがありますが、CHメモリーについては、12項を参照ください。

連続モードがセットされている場合、各モードごとの各CHをサーチして行きます。

解除の場合は、各CHメモリーが記憶しているモードに順次切り替ります。

HOLD + **(1)** + **(3)** → **3**

25. 空きCHサーチ機能

モニタースキャンのとき、空いているCHで止めるようにします。あくまで機械の空きCHレベルにより判断しますので、遠くで使用している場合、また、ブレークタイムの時などで使用中のCHで止まることもあります。

HOLD + **(1)** + **(4)** → **4**

26. 全モード待受け機能

すべてのモードの制御CHをリセット中にスキャンしながら待ち受けします。一度に8つのCHを聞いている訳ではないので、着信率は悪化します。モードが切り変わる状態を先頭のケタに表示します。全モード待ち受けをしている局を呼び出す時には、連続リコールを使用してください。

HOLD + **(2)** + **(1)** → **2 1** → **群番号表示** → **モード・CH** ↔ **群番号表示**

27. 自動モニター機能

待ち受け状態のとき、3分ごとに全CHメモリーのモニタースキャンを行います。

HOLD + **(2)** + **(2)** → **2 2**

28. 留守番機能

留守中に、呼び出しを受けた群番号、チャンネル、モードを記憶しています。
留守中にだれが呼んだかすぐに判別できます。

HOLD + (2) + (3) → 2 3

29. 留守番メモリーガード機能

こわしたくない留守番メモリーに、ガードをセット、OFFする機能です。

HOLD + (2) + (4) → P 0 セット + (0) → P 解除
→ P 1 セット + (0) → P 解除
→ P 2 セット + (0) → P 解除
→ P 3 セット + (0) → P 解除

30. PTT自動リコール機能

PTTをはなした時に、自動的にリコールを送信する機能です。

次に示す、PTTリコールタイマー制限と関係がありますので、以下の項目と合わせて使用してください。

HOLD + (3) + (1) → 3 1

このセットだけの場合ですと、PTTを握って1分以上たたない場合にはリコールをしません。

以下の設定をしますと、このタイマーに関係なく、つねにPTTをはなした時にリコールをします。

HOLD + (3) + (2) → 3 1 2

31. 多群番一括リコール機能

待ち受け指定をしている群番号を、すべてリコールする機能です。待ち受け設定は8項に記してありますので、そちらを参照してください。呼び出すCHは、リコールを打ったCHになります。

HOLD + (3) + (3) → 3 3

《ワンポイント》

流れる群番

1. メモリー0からメモリー9までに1桁つつずらした群番号をメモリーさせます。
2. 待ち受けを0から9まで全てでセットします。
3. リコールを打ちますと、まるで群番号が流れていくように見えます。

32. タイマーリコール機能

通話中自動的に、3分ごとにリコールを打つ機能です。

HOLD + (3) + (4) → 3 4

◎その他の特殊機能 (ノーマルの説明書にもありますので参照してください。)

33. PA (拡声器)

外部スピーカーを接続することにより、拡声器として使用できます。
使用方法はノーマル機と同じです。

HOLD + マイク SHIFT → P P E n d + (5)

34. ストップウォッチ機能

このストップウォッチはラップ計付きで1/10秒まで計れます。
使用方法はノーマル機と同じです。

HOLD + マイクSHIFT ⇒ **RPPEnd** + **7**

35. 目覚し時計機能

設定時間よりカウントダウンし、時間になると音で知らせます。
目覚し時計や、交信の約束時間にセットしたりします。
使用方法はノーマル機と同じです。

HOLD + マイクSHIFT ⇒ **RPPEnd** + **8**

④その他HOLD機能

36. 受信感度低減機能

本機の受信感度を5W→0.2Wに切換えます。遠距離からの混信がある場合に効果的です。

HOLD + **4** + **1** ⇒ **4 1** RXL点灯

37. 送信出力の低減機能

本機の送信出力を5W→0.2Wに低減させます。遠距離へ妨害を与えている場合、効果的です。

HOLD + **4** + **2** ⇒ **4 2** 0.2W点灯

38. ローカルモード機能

通話する相手局をローカルモードで呼び出します。呼び出された相手局は、自動的に送、受信とも低減状態で呼び出されます。

HOLD + **4** + **3** ⇒ **4 3** LOCAL点灯

39. 1分通話モード機能

通話する相手局を1分通話モード呼び出します。自局は1分たっても待ち受け状態にもどりません。

HOLD + **4** + **4** ⇒ **4 4** 1MIN点灯

40. タイマーカット機能

元々、タイマーを動作させようが、させまいが、G7 SFXには通話の時間制限はありません。
この機能は、単にタイマーを止めるだけでなく、使用状況に応じてさまざまに変化します。

HOLD + **(M)** + **1** ⇒ **0** セット **HOLD** + **(M)** + **1** ⇒ **0 1** 解除

同時に、パネルの“T-LIM”ランプが消灯、点灯します。

A. 呼び出し、及び着信の時

タイマーカットがセットされている場合は、捕捉（呼び出しや、着信で表示が点滅している時）のあと、自動的にレディモードになります。

タイマー動作セットの場合には、30秒間捕捉状態のあとリセットします。

またこの間に“HOLD”、“REMOTE”、“PTT”などで、レディモードに固定することもできます。

B. 固定モニターの時（固定モニターとは、CH指定や、リセットより1回目のモニターキーでなる状態）

タイマーカットがされている場合には、リセットしない限りそのCHにいます。

タイマー動作セットの場合には、なにも受信しなくなってから15分間たつと、自動的にリセットします。

C. モニタースキャンの時

タイマーカットがセットされている場合には、入感のあったCHで固定モニターになります。
タイマー動作の場合は、入感のあったCHを30秒間傍受し、続けて次のCHにスキャンを続行します。

D. モニターから、群番号一致の時

タイマーカットがセットされている場合には、5分間捕捉状態の後、待受け状態に移ります。
タイマー動作の場合は、5分間の捕捉状態の後、モニタースキャンに移ります。

E. リセットから“PTT”などで通話CHに移る時

タイマーカットされている場合には、特に変化はありません。
タイマー動作の状態では、1回目の発呼信号は送信しません。しかし、2回目にPTTを押す時にだけ、PTTによる自動リコールを行います。この機能により、たまたま開いたCHが使用中であっても、そのままリセットすれば、不要な呼び出しを減らすことができます。

41. 80CH/158CHモードの切替機能

80CHと158CHのモード切替えができます。

HOLD + **M** + **2** → **n 2** ⇒ **80CH** 点灯 **HOLD** + **M** + **2** → **n** 解除

42. 動作音の変更機能

キーは受付動作音の大きさを変えます。HOLDキーにつづいて、0キーを数回押すことに、音が太、小、消すの状態が交互に現われます。

HOLD + **0** → **F H** 動作音大 **F L** 動作音小 **F 0** 動作音消

43. 群番、CHロック機能

メモリー1に記憶させている群番号、モード、CHでロックをかけます。ただし送信に移る場合に動作します。それ以外の操作では通常どおり行えます。

HOLD + **C** + **I** → **c I**  鍵のランプが点灯しセット

HOLD + **C** + **I** → **c** 解除

通常の動作とは、モニター、リセットなどの無線機の状態から、メモリーの切り替え、群番号の打ち替え、CHメモリーに関すること、その他もろもろの動作も受け付けます。

ところが送信状態になったとたん、すでに変っているはずの以前の内容に群番号、CHとも変更されます。これは“HOLD”+“C”+“I”の操作を行った瞬間に、その内容を別の状態で内部に取り込んでいるからです。一旦取り込まれたデータは、再度“HOLD”+“C”+“I”でロックを解除するか、死んだふり状態になるまで変更されません。

44. 群番解読一発モニター機能

リセット中に解読された群番のCHに、即モニターできる機能です。解読表示中に本体の“END”キーを押してください。解読された群番号が呼び出したCHをモニターできます。

HOLD + **C** + **2** → **c 2** セット **HOLD** + **C** + **2** → **c** 解除

《ワンポイント》

実際操作方法

1. HOLD+6をセットします（群番が見えなければ話になりません。当然群番解読セットです。）
2. HOLD+C+2をセットしたら、リセット待機します。
3. 混雑している地域では、めまぐるしい程、群番が変わっていくでしょう。
4. キャッチしたい群番が「出たッ!」その瞬間に本体の“END”キーを押します。
5. 捕まえた群番がリコールが呼び出しをしたCHに、モニター状態で飛び込んでいる筈です。
6. “PTT”を押せば、キャッチしたその群番号で通話が開始できます。

45. セミデュプレックス機能

送信と受信の周波数を別々に設定する機能です。これによりパーソナルで本格的なレピーターも可能です。

HOLD + **C** + **3** ⇒ **c** **3** セット **HOLD** + **C** + **3** ⇒ **c** 解除

チャンネルメモリーの0のCHが受信周波数、メモリー9のCHが送信周波数になります。

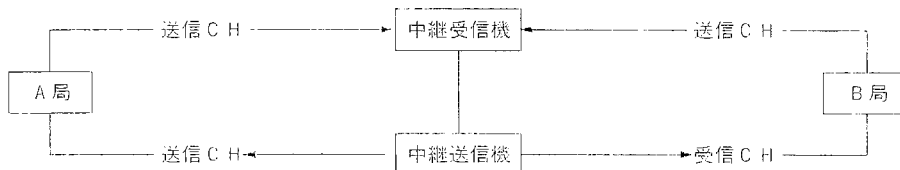
《ワンポイント》

こんなつかいかた

2局で交信する場合、お互い同士のCHメモリー0と9を入れ替えておけば、モニターされても片方の話しか聞かれなくなります。3局以上は不可能ですが……

レピーターシステムとは

レピーターとは中継方式の通話を行うものです。送信、受信の周波数が違えば、以下のことができます。



A局から送られた電波は、中継で周波数が替えられ、B局に届きます。B局からA局へも同じ動作になります。中継機は、送信と受信の周波数がずれているため、自分の電波は受信しませんので送受が同時におこなえません。中継機をロケの良い場所に設置すれば、非常に遠距離との交信も安定して行えるようになります。

なお、レピーターシステムの詳細については、購入された販売店等におたずね下さい。

46. 周波数移動秘話機能

秘話装置には、音声をその周波数を反転させて、内容が判別出来ないようにするものが良く使用されていましたが、最近になってデジタル方式の秘話が実用化されました。(警察無線など)

この方式は解読することが非常に困難で、その秘匿性が高いものです。また、無線では別の方法で、同様に秘匿性の高い方法があります。これは、1対1の通信を行う場合、非常に広い周波数帯域を使用しておこなうものです。

A. 周波数拡散方式……これは送信時の周波数帯域を非常に広くとり、個々の周波数に情報を分散させ相手に送るものです。しかし、無線機自体に専用の機構が必要なので非常に高価です。

B. 周波数時分割移動方式……すでにアメリカなどでは業務実用の段階にあるようですが、周波数を移動しながら必要な情報を相手に伝えます。しかし、送り、受け側ともに周波数が同期して移動できなければ内容の再生ができません。周波数がどのように移り変わっていくかが分からないと解読は非常に困難です。

パーソナル無線機は内部にマイクロコンピュータを持ち、ATIS信号で、無線機同士の情報交換ができます。このことを利用して、B.の“周波数時分割”による秘話が可能になります。

実際の動作としては、CHメモリー0～9に記憶させてある周波数を一定時間で順次移動してゆきます。

まず、どの周波数を使用するかを決めます。→CHメモリー0から9まで使用するCHをメモリします。相手側も同じ順にメモリーさせる必要があります。

HOLD + **MON** **1 1 1 1** **2 2 2 2** ……

メモリーさせてあるCHの表示が順次かわってゆきます。

そして、1週ごとに同期をとるため、送信側からATIS信号を送信します。

c 1 100

CHメモリー0の時、送信状態だと、ATIS信号を送信する。

また、受信状態になっている場合は、相手からのATIS信号を待ち合わせします。

ATIS信号を受信し、その群番号が自局のものと同じの時、内部のタイマーあわせをして、周波数を切り替えてゆきます。

ほぼ2秒おきの周期でCHが切り変わってゆきます。

切り変わった周波数が使用中でも、妨害するのも、されるのも、2秒間だけです。

メモリー0に割り当てるCHは、同期のためのATIS信号が送信されますので、なるべく混信のないCHを選んで下さい。

もし、同期がはずれたら(相手の声が聞こえなくなったら)次の同期まで、送信を控えます。一回りで20秒ですから、最大でも20秒間で復帰できます。

通常の無線機機能に戻るには、本体かマイクの“END”キーを押します。

(戻った場合、無線機の表示状態がおかしい場合がありますが、メモリーなどは消えていません。)

47. 切断信号の送信機能

セットしている群番、CH、モードで切断信号を送信します。ここでいう切断信号とは、自局に暗証コードのない場合のことです。暗証コードが分からないため、すべてに該当するコードの信号を送信します。送信終了まで約2分間かかります。

HOLD + **CALL** → **d 15c** TXランプが点灯し、Sメーターが振れればなしになる。

また、通常の切断信号（通話状態から、自局と同じ暗証コードを持つ局だけをリセットさせる）を送信する場合には、本体側の“END”キーを1秒以上押します。

この場合は、自局の持っている暗証コードのみで送信します。

48. マイクキーの機能（マイクのキー機能は、状況に応じて機能が異なります。）

	REMOTEキー	SHIFTキー	ENDキー
待 受 け 中	固定モニターへ	群番メモリー及び特定群番呼出し	
固定モニター中	+ I CH	- I CH	待受け状態へ
モニタースキャン中	+ I モード	- I モード	・タイマー動作時、スキャン一時停止 ・タイマーカット時、固定モニター
スキャン一時停止中	固定モニターへ	モニタースキャンへ	待受け状態へ
モニター群一致中	固定モニターへ		待受け状態へ
通 話 中	連続リコール	送信出力、受信感度の変更	待受け状態へ
H O L D 機 能 中	死んだぶり		HOLD機能から抜ける

48. 特殊オプション群番号機能

新モードの機種には、新たにA、B、H、L、P、Eなどを頭文字にした特殊群番号がもうけられていますが、実際にはそのような文字のコード信号が出ている訳ではなく、すべて数字の“0”からアルファベットの“F”までのコードで送られています。

FF000 → E - CORD
 F0000 → F - CORD
 F0003 → H - CORD
 F0005 → L - CORD
 F0006 → A - CORD
 F0009 → B - CORD

このような構成になっています。規則性としては、先頭が“F”であること、E-CORDを除いて中が“000”であることのようにですが、まだ空きがあります。

そこで、GV SFXでは勝手に空きコードにコードネームをつけました。

F0001 → N - CORD
 F0002 → Y - CORD
 F0004 → r - CORD
 F0007 → T - CORD
 F0008 → G - CORD
 F000A → U - CORD
 F000B → - CORD
 F000C → c - CORD
 F000D → d - CORD
 F000E → F - CORD
 F000F → O - CORD

↑各自好きなコード名をつけてください。↑

これらの群番号は、あらかじめメモリーにある訳ではなく、そのコードに該当する群番号を打ち込むと、上記のように表示されるものです。

(M) + **(1)** + **(C)** + **SHIFT** + **(6)** + **SHIFT** + **(0)** + **(0)** + **(0)** + **(8)** → **d 0-cod**
(M) + **(2)** + **(C)** + **SHIFT** + **(6)** + **SHIFT** + **(0)** + **(0)** + **(0)** + **SHIFT** + **(1)** → **d U-cod**

末尾に該当する部分に、0~Fの文字にあたるキーを押せば、上記に記してあるコードが表示されるはずですが、特にY-CORDなど、どんな通信目的に使用されるかは、推して知るべし。大いに利用してください。

また、他の機種では当然表示されませんので、あまり意地をはらないように…

④数字キーについて

数字キーは、ノーマルの場合、待受けの設定／解除をダイレクトに入力するために使用されましたが、SFXでは完全16面待受けのため、キーが足りずに別方法となっています。

①から⑥のキーには、CH及びモードを動かす機能があります。

⑦から⑩のキーには、スペシャルメモリーに関する機能があります。

キーパネルの各機能		
現在のCHより -1 CHダウン ①	現在のモードより +1 モードアップ ②	現在のCHより +1 CHアップ ③
現在のCHより ハーフでCHダウン ④	現在のモードより -1 モードダウン ⑤	現在のCHより ハーフでCHアップ ⑥
スペシャルメモリーを ひとつ戻す ⑦	スペシャルメモリーを 呼び戻す ⑧	スペシャルメモリーを ひとつ送る ⑨
スペシャルメモリーを 記憶させる ⑩	C	M

※80CHモードの時は④と⑥のキーはそれぞれ①と③のキーと同機能となります。

⑤チャンネル及びモードについて

キー操作によるチャンネル設定の場合は、1 CHから158CHまで可能です。モニタースキャンの場合は、2 CHから158CHまでです。

⑥モードの切替機能

モードの切り替えは、②又は⑤のキーを使用して瞬時に切り替えられます。

操作は、リセット中、モニター、レディ、送信中、いずれからでも可能です。

⑦CHの切替機能

CHの切り替えもモードと同様、① ③ ④ ⑥のキーで瞬時に切り替えられます。

《ワンポイント》

最近の900MHz帯の様子

パーソナル無線も、もう7年の歴史がありますが、最近になって特にOFFバンドに対する取り締まりが強化されてきているようです。驚くことは、このG7 SFXのバンドの状態で、6、7モードあたりで自動車電話が入感してくることで。自動車電話は、もっと下の周波数から割り当てであるはずですので、このあたりの周波数まで使用しているとなると、相当の加入者数になっているものと思われます。

うらをかえせば、それだけお金をかけて電波を使用している局が多くなってきているということです。このため、多大の費用を使って運用している局が多くなるため、特にパーソナル無線のOFFバンドに対する取り締まりが厳しくなっています。なにしろパーソナルは、彼等にとってはただの遊びですから、各自十分自覚をもって、このG7 SFXを運用してください。取り締まりなどには、十分注意しましょう。

モード 0	ノーマルモード	903~905MHz	ノーマル
1	ダウンモード	901~903MHz	— 現在割り当てなし
2	Wダウンモード	899~901MHz	
3	トリプルダウンモード	897~899MHz	
4	フォースプライベートモード	895~897MHz	
5	ファイブプライベートモード	893~895MHz	
6	シックスプライベートモード	891~893MHz	— 自動車電話がぼちぼち使用中
7	どん底モード	889~891MHz	

モード 4、5、6、7は極度に周波数が離れているため、無線機本体の性能により、送信できない場合があります。また送信しても安定した電波であるかは不明です。このため、この周波数帯での送信は、極力行わないでください。終段パワーモジュールの故障の原因ともなります。

《ワンポイント》

無線機の基本的性能について

7年間の間に、各社から色々な機種が発売されましたが、最近の無線機の傾向としては、

「以前に比べて、耐久性、余裕度が無くなった」ことが目に付き始めました。

メーカーも「この程度ならまああ使える」というノウハウが蓄積されて、定価設定も下げたいために個々のパーツなども、性能に影響のない部分から徐々に低価なものに切り替えられてきています。

(ここでいう“安価”とは、メーカーにとって“安価”であって、大量発注すれば非常に値が下がるパーツの変更に多いようです。逆にいうと“オーダーメイド”ですから、一般的には入手が困難になる場合がありますVCOユニット、パワーモジュールなど保守面からすると、後々高くつく場合が多い様です。)

おかげで、送信できるバンドは狭くなり、耐熱性の低いパワーモジュールになってしまいました。

このことを十分理解して運用して下さい。

4モードからパワーが出なかったり、すぐにモジュールが壊れるのは私のせいじゃありません。メーカーが悪いんです。

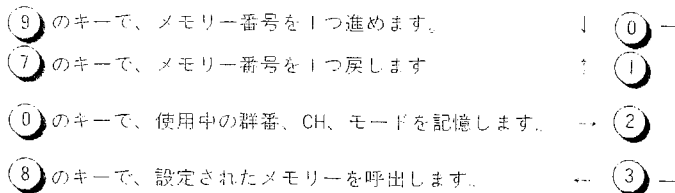
④ スペシャルメモリー機能

スペシャルメモリーとは一種の裏メモリーです。SFXでは、1280CHにも増えたすべてのCHを十分有効に使用するのは、困難なほどになりました。そこでスペシャルメモリーを活用して、ある程度のCH、群番の管理を機械に任せてしまおうというものです。

- A. 普通のメモリー(“REMOTE”キーで切り替える)とは、全く別のものです。
- B. このメモリーに入っている群番では、待受けは出来ません。
- C. 群番、CH、モードがワンセットになっています。群番だけ、CHだけのなどの変更はできません。
- D. ワンタッチで、記憶させられます。
- E. ワンタッチで記憶させた状態に飛び移ります。(周波数、群番がいつへんで切り変わる。)
- F. 記憶できる数は、4個までです。5個目を入れると最初の1個が消されてしまいます。

1. スペシャルメモリーの仕組み

スペシャルメモリーには、0~3までの番号がついています。



スペシャルメモリー関係の操作を行った場合 **← ④ = 0 = ④** と表示がされます。

これは、現在中央に表示されたナンバーのメモリーに、記憶または呼び出しが可能という意味です。

2. スペシャルメモリーを呼び出す

普通の状態で、⑦と⑨のキーを押すと、**← ④ = 0 = ④** のような表示がでて群番が出ます。ただし、上の中央の数字は、現在のメモリー番号を表わしていますので、0~3までのどれかです。

⑦と⑨のキーで、呼び出したいメモリー番号、群番が表示された時に⑧のキーを押すと、記憶されていたチャンネル、モードでモニター状態に移ります。

また、PTTを押すと自動的に記憶されていた群番になっています。

通話が終わってリセットしますと、スペシャルメモリーを呼び出す前の群番にもどります。

3. スペシャルメモリーの記憶方法

ここでは、自分の希望する群番、CH、モードを指定したメモリーに記憶します。

普通の状態では(7)又は(9)のキーを押して、記憶したいメモリー番号にあわせませす。

以下に一般的にありそうな状態の例を、操作の順序をおって示します。

(1)まず機械が勝手にメモリー機能を動作させないように、以下の操作をします。

(HOLD) + (2) + (3) → a 12 “3”が消えるようにする。

(2)自分のクラブなどのメイン群番、CHをメモリー“0”にセット (例 HIGH 12345)

(9) + (9) → c=0=

(C) + (1) + (1) + (MON) → 0° 11

(M) + (C) + (1) + (2) + (3) + (4) + (5) → 12345 → (0) → 12345

3群番解読セット時、モニターサーチから知り合いの人にお声掛けしたら「ウチのフレンドが聞きたいことがあるって言うてたから、10分後位にまた来て！」と言われたので、こどもメモリー、55CHの67890だった。

(9) + (9) → c=1= CH. 群番表示後 (0) → 67890

4.群番号解読一発モニターをセット時、見なれない群番表示が出ました (END) を押したら聞きなれない“YL”さんの声。彼と話中、じゃこれもメモリーしといてあとでブレイクしよう (群番87654)

(7) + (7) → c=2= → (0) = 87654

(5)10分たったので、さきほどのとこに戻る。

(7) → c=1= → (8) → 67890 (PTTをにぎって「オーイ/…」)

(6)YLさん、まだやってるかな～？

(9) → c=2= → (8) → 87654 (ありゃ、もういない?)

7.しょうがない、いつものポイントでもワッチするか。

(7) + (7) → c=0= + (8) → 12345

この例では、メモリー0、1、2と記憶させ、1、2、0の順に呼び出していますが、どのような順番でも構いません。使い込んでゆくほど便利になるでしょう。

※群番号解読機能がONの際は最後に受信した時の群番号、チャンネルモードが記憶されます。

④リセット群中の留守番機能

留守中に、呼び出しを受けた群番、チャンネル、モードを記憶する機能です。

留守番メモリーとしてスペシャルメモリーを使用します。個別にメモリーガードが掛けられます。メモリーガードが掛けられた留守番メモリーには、記憶されません。

(HOLD) + (2) + (3) → a 3

こわしたくないメモリーに、メモリーガードをかけます。

(HOLD) + (2) + (4) → p

つづいて0から3のキーを押すと設定/解除ができます。

以上をセットして、リセット待機すれば、自動的に呼出しを受け、20秒後に、その群番、チャンネル、モードを留守番メモリーに記憶して、リセット状態に戻ります。

留守番記憶が行われた場合は、🔑ランプが点滅して呼出しがあったことを知らせます。

(7) → c=0= → r 12345 たまった群番が出て、左端にrの表示がでます。

希望する群番の表示された時に(8)のキーを押しますと、そのCHに移ります。

留守番メモリーが満杯になると、以後は記憶されません。

メモリーガードが掛けられたり、留守番記憶がされたメモリーは、記憶されません。

留守番記憶のクリアーは以下のようにやります。

(HOLD) + (2) + (3) → a

“3”の数字が消える 🔑 点滅

(HOLD) + (2) + (3) → a 3

🔑 消灯して記憶させた群番がクリアーします。

◎HOLDの機能一覧表

ウルトラSFX基本操作表

HOLD + ① + ①	→ ON→スキャンスピード低速	OFF→スピード高速
HOLD + ① + ②	→ ON→全モードスキャン	OFF→単一モードスキャン
HOLD + ① + ③	→ ON→メモリースキャン	OFF→順番CHスキャン
HOLD + ① + ④	→ ON→空きCHスキャン	OFF→使用CHスキャン
HOLD + ② + ①	→ ON→全モード待ち受け	OFF→単一モード待ち受け
HOLD + ② + ②	→ ON→自動モニターセット	OFF→自動モニターなし
HOLD + ② + ③	→ ON→留守番セット	OFF→留守番なし
HOLD + ② + ④	→ ON→留守番メモリーガード	OFF→留守番メモリーガードなし
HOLD + ③ + ①	→ ON→PTTリコール有り	OFF→PTTリコールなし
HOLD + ③ + ②	→ ON→PTTリコール有りのとき	OFF→PTTリコール有りのとき
HOLD + ③ + ③	→ PTTはなした時常にリコール	→ 1分以内リコールなし
HOLD + ③ + ④	→ ON→多群番リコール	OFF→普通のリコール
HOLD + ④ + ①	→ ON→タイマーリコール	OFF→普通のリコール
HOLD + ④ + ②	→ ON→受信感度低減	OFF→受信感度通常
HOLD + ④ + ③	→ ON→送信出力低減	OFF→送信出力通常
HOLD + ④ + ④	→ ON→ローカルモード	OFF→通常モード
HOLD + ⑤	→ ON→1分通話モード	OFF→通常モード
HOLD + ⑥	→ ON→ATIS信号カット	OFF→ATIS信号出る
HOLD + ⑦	→ ON→群番解読	OFF→群番解読しない
HOLD + ⑧	→ ON→群番自動作成	OFF→群番自動作成なし
HOLD + ⑨	→ ON→CH優先表示	OFF→CH優先表示なし
HOLD + ⑩	→ ON→免許番号待受け	OFF→群番待受け
HOLD + C + ①	→ 動作音の変更	
HOLD + C + ②	→ 群番、CHロック(群番号、CHメモリー1使用)	
HOLD + C + ③	→ 解読群番一発モニター	
HOLD + M + ①	→ セミデュプレックス機能(CHメモリー0と9使用)	
HOLD + M + ②	→ ON→タイマーカット	OFF→タイマー動作
HOLD + HOLD + ⑦ から ⑨	→ 80CH/158CH切替	
HOLD + HOLD + HOLD	→ 群番号コピー	
HOLD + HOLD + MON	→ 免許番号吸い取り	
	→ 自局の免許番号表示	

HOLD + HOLD + CALL	→ 相手の免許番号表示
HOLD + HOLD + (M)	→ 免許番号の作成
HOLD + MON	→ 周波数移動秘話機能
HOLD + CALL	→ 切断信号の送信
HOLD + REMOTE	→ 死んだふり
HOLD + SHIFT + (C) + (1)	→ HOLD+1の機能を全て解除
HOLD + SHIFT + (C) + (2) +	→ HOLD+2の //
HOLD + SHIFT + (C) + (3)	→ HOLD+3の //
HOLD + SHIFT + (C) + (4)	→ HOLD+4の //
HOLD + SHIFT + (C) + (C)	→ HOLD+C+1-3の機能解除
HOLD + SHIFT + (C) + (M)	→ HOLD+M+1-2の機能解除
HOLD + SHIFT + (C) + (0)	→ HOLDの機能の設定を全部解除
HOLD + SHIFT + (5)	→ 拡声器
HOLD + SHIFT + (7)	→ ストップウォッチ
HOLD + SHIFT + (8)	→ 目覚し時計
HOLD + END	→ HOLDから抜ける
HOLD + マイクEND	→ HOLDから抜ける

④ Mキーの機能一覧表

(M) + (0) から (9)	→ メモリーの指定及び呼び出し
(M) + HOLD + (0) から (9)	→ チャンネルメモリーの書き込み
(M) + MON + (0) から (9)	→ チャンネルメモリーの呼び出し
(M) + CALL + (0) から (9)	→ メモリー1からメモリー9の待ち受け設定、解除
(M) + CALL + SHIFT + (4)	→ A-CODEの待ち受け設定、解除
(M) + CALL + SHIFT + (5)	→ B-CODEの待ち受け設定、解除
(M) + CALL + SHIFT + (6)	→ L-CODEの待ち受け設定、解除
(M) + CALL + SHIFT + (7)	→ H-CODEの待ち受け設定、解除
(M) + CALL + SHIFT + (8)	→ P-CODEの待ち受け設定、解除
(M) + CALL + SHIFT + (9)	→ E-CODEの待ち受け設定、解除
(M) + (0) + (9) + (C)	群番5桁 → 群番メモリーの書き込み

◎MONキーのCH指定方法

MON →リセットの場合は前回使用のCH、モニターの場合はスキャン。通話時はCHメモリー書き込み

C + **0** から **9** + **MON** →メモリーCHの呼び出しで固定モニター

C + **0** から **9** のキー2回 + **MON** →キー入力のCHへモニター

C + **1** + **0** から **9** のキー2回 + **MON** →キー入力のCHへモニター

◎CALLキーの機能

CALL →待受け中は、群番メモリー及び特定群番の自動呼出し。

モニター中は、CH、モード表示が、群番表示に切替わる。


CH優先表示の設定（HOLD+8セット）の時は、CH、モード表示が群番表示に切替わる。

XI. チャンネルの配列について

チャンネルの配列は、以下のようになっています。

1		2	81	3	82	4	83	5	84	6	85
7	86	8	87	9	88	10	89	11	90	12	91
13	92	14	93	15	94	26	95	17	96	18	97
19	98	20	99	21	100	22	101	23	102	24	103
25	104	26	105	27	106	28	107	29	108	30	109
31	110	32	111	33	112	34	113	35	114	36	115
37	116	38	117	39	118	40	119	41	120	42	121
43	122	44	123	45	124	46	125	47	126	48	127
49	128	50	129	51	130	52	131	53	132	54	133
55	134	56	135	57	136	58	137	59	138	60	139
61	140	62	141	63	142	64	143	65	144	66	145
67	146	68	147	69	148	70	149	71	150	72	151
73	152	74	153	75	154	76	155	77	156	78	157
79	158	80									

XII. 表示ランプについて

ラ ン プ	意 味
待受けランプ	群番号メモリー及び特定群番号の待受け設定/解除を表す。
	消灯 点灯 遅い点滅 早い点滅
1	解除 1の設定 - -
2	解除 2の設定 - -
3	解除 3の設定 - -
A	解除 4の設定 Aの設定 4とAの設定
b	解除 5の設定 bの設定 5とbの設定
L	解除 6の設定 Lの設定 6とLの設定
H	解除 7の設定 Hの設定 7とHの設定
P	解除 8の設定 Pの設定 8とPの設定
E	解除 9の設定 Eの設定 9とEの設定
T-LIM	消灯 タイマーカット中 点灯 タイマー動作中
SOCH LOCAL 1MIN	点灯 80チャンネルモード 点灯 ローカルモード 点灯 1分間通話モード
C-MEMO	消灯 群番号待受け 点灯 免許番号待受け
SIGNAL	点滅 全モード待受け
	点滅 留守番機能設定時、留守番記憶がされた。
MON	点灯 固定モニター又はモニター群一致中 点滅 モニタースキャン中又はスキャン一時停止中